

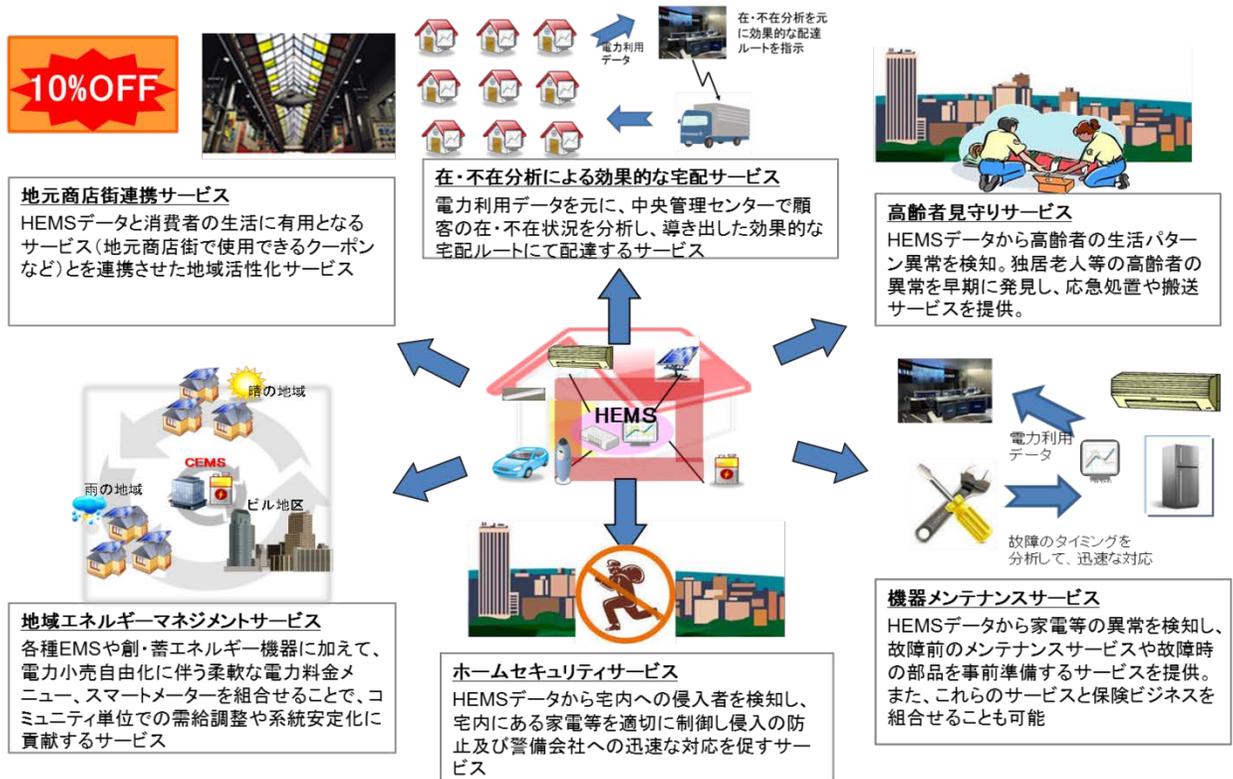
HEMS情報基盤に係る標準化の考え方について

2014年5月28日

スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会

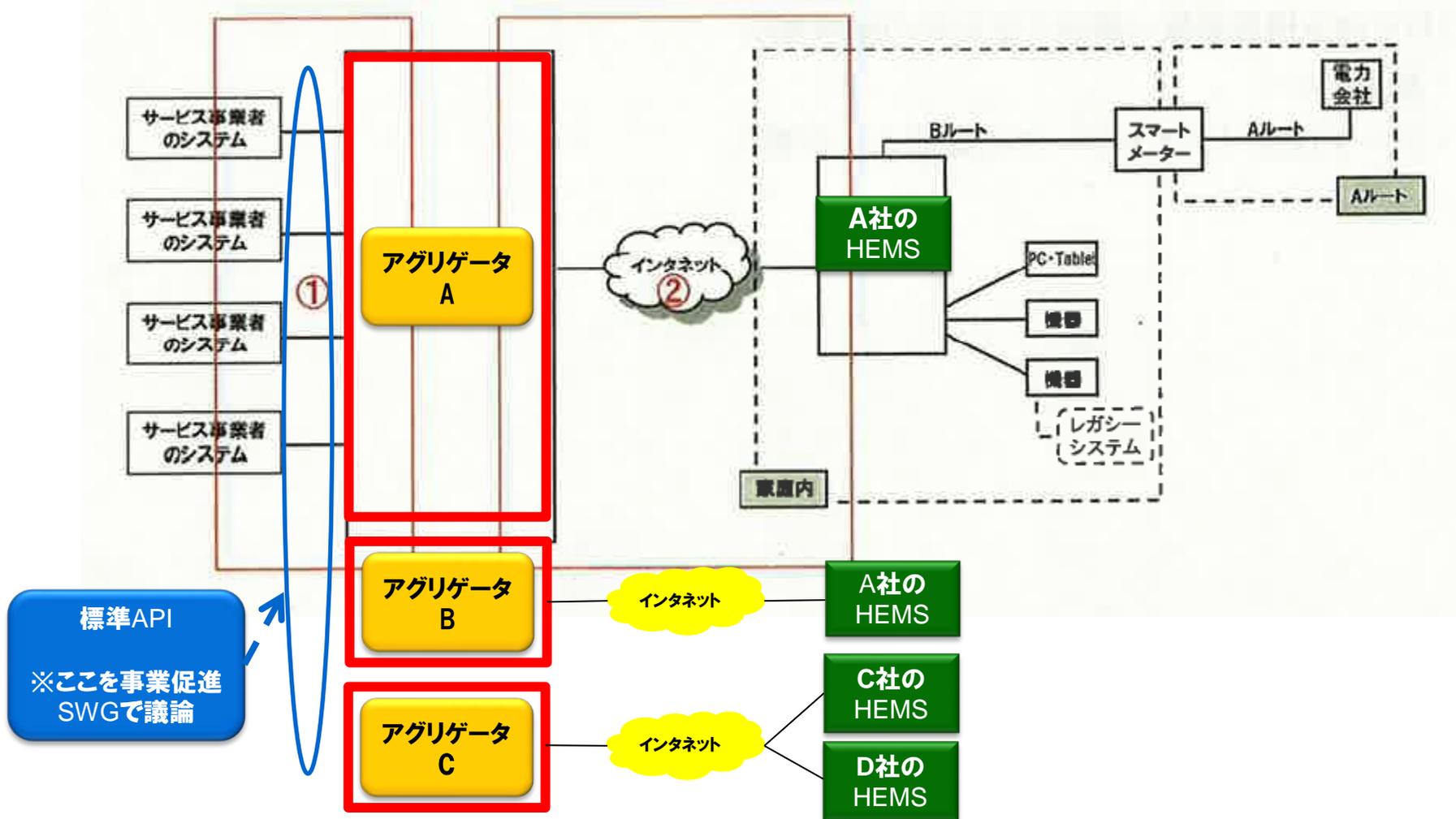
1. HEMS情報基盤に係る標準化の目的

- HEMS市場の活性化の為に、HEMSより収集される電力利用データを利活用したサービスの創出及び普及が不可欠となり、ベンチャーや中小企業を含む様々なサービス事業者の創意工夫が活かされる環境の整備が必要となる。
- そのような環境の整備の為に、アグリゲーターが独自の仕様を用いて電力利用データを囲い込むことがなく、サービス事業者がアグリゲーターを跨いだ事業を展開出来るよう、HEMS情報基盤に関する標準化の検討が必要である。
- そこで、本資料では上記目的に沿った標準化の検討を行うため標準化の範囲及び標準化に向けて留意すべき考え方について整理することとする。



2. HEMS情報基盤に係る標準化の範囲について

- サービス事業者とHEMS情報基盤との間(範囲①)については、ベンチャーや中小企業を含む様々な事業者が市場参入しやすくする観点から、標準化の必要がある。
- HEMSとHEMS情報基盤との間(範囲②)については、HEMSの買い換え時のスイッチングコストの観点から、標準化を進めるべきとの考えもある一方、将来的にはクラウド型のHEMSを契約アグリゲーターが極めて安価に提供していく事も考慮すれば、必ずしも標準化が必要とは考えられない。



3. 今後の検討の進め方

- 標準化の検討にあたっては、現在または将来想定される具体的なHEMSデータ利活用サービスを前提に、そこからの要求を満たすよう簡素さと拡張性のバランスを検討していくことが必要である。
- そこで、平成26年度事業「大規模HEMS情報基盤整備事業」において、HEMSデータ利活用サービスを実際に運用することで抽出された課題や、対処を通じて標準化を進めることとする。

